

一折入魂の手引き

平成 25 年 8 月

平成 25 年 9 月

平成 29 年 7 月一部訂正

平成 30 年 10 月一部訂正

半 田 文 直

序

「おりがみ」？「折紙」？「折り紙」？

いずれにしても「おりがみ」と聞いて、何を連想しますか？

もう少し具体的な質問をしましょう。「おりがみ」と聞いて、どんな「作品」を連想しますか？

- 1 「千羽鶴」「連鶴」など、すなわち「おりづる」を連想する。
- 2 「おりづる」をふくめ、「やっこさん」「はかま」「ほかけぶね」など、いわゆる**伝承作品**を連想する。
- 3 幼稚園、保育園時代に、先生から教えてもらった、あるいは友達と折って遊んだ、「だましぶね」「はこ」あるいは、「オルガン」「かぶと」など、これも**伝承作品**を連想する。
- 4 「**ユニットおりがみ**」と言われる、単一の折り紙を多数組み合わせで作った立体物を連想する。
(くすだま、多面体、など)「しゅりけん」は伝承作品
- 5 「**キャラクターおりがみ**」に代表される、大きさの異なる紙を使用し、パーツを折った後、それらを組み合わせる、**複合折り紙**を連想する。
- 6 紙の大きさに関しては、不問だが、正方形あるいは長方形の紙を使い「**不切一枚折り**」を条件にした、複雑な(**コンプレックス**)おりがみを連想する。
- 7 あくまで、15センチのおりがみにこだわった、多くの**新しく創作された折り紙**を連想する。
- 8 レポート用紙、便箋など(長方形、矩形の紙)に手紙を書き、それを「シャツ」や「たけのこ」「いちご」に折りたたむ、**手紙折り**を連想する。
- 9 新聞広告などを利用して折った、**紙飛行機(おりがみヒコーキ)**を連想する。
- 10 地下鉄の切符、お札(お金)、箸袋など、**定型の用紙**を使って、何かを折る折り紙を連想する。
- 11 日本古来からある、**儀礼、儀式**に使われる、「雄蝶・雌蝶」あるいは「熨斗」と言った儀礼の折り紙を連想する。
- 12 「**ミウラ折り**」と言う、地図や人工衛星のパネルを折りたたむ、その方法を連想する。
- 13 数学の不可能問題「任意の角を三等分する方法を正方形のおりがみで証明する。」と言った、**数学的要素**を含んだ折り紙を連想する。
- 14 **無限折り、分割折り**、あるいは**平織り**という、長い紙や、大きな紙を折り畳み、それらを使って、新しいものを表現する作品。
- 15 かやらくさ、折手本忠臣蔵等江戸時代に折られた折り紙とその発展の光弘式折り紙。
きつと、まだまだほかにもあることでしょう。

それらを、いくつかの種類に分類するならば、次のように大きく分類できるでしょう。

I **科学的要素を含んだ「折り紙」**

II **複雑で、折り図を見ない限り、基本的には本人にしか折れない「折り紙」**

III **儀礼、儀式としての「折り紙」**

IV **遊びとしての「折り紙」**

また、分類したところで、それらがどちらにも属することも、大いにありえます。

実に多種多様に及ぶのが「折り紙」の世界です。

本人にとって「これが、これこそが・・・」と言ったところで、誰もが同じことを考えますから、どれも「折り紙」です。それぞれに特徴があり、それが特長になります。

「おりがみ」？「折紙」？「折り紙」？

この言葉の使い分けを、この先、混同しないように、前もって決めておきましょう。

「おりがみ」とひらがな表記・・・

折る紙のことを、このように表現します。市販されている、15センチ四方の正方形ものがほとんどですが、最近は、千羽鶴用、ユニット折り紙用、あるいは、くすだま用と言うことで、サイズの小さいものもあります。基本的には正方形の片面に、色のついた紙を言います。もちろん両面に別々の色のついたものでも、模様をついたものでもかまいません。

「いろがみ」としたほうが良いのでは、という意見があります。それでもいいと思います。しかし、漢字で書くと「色紙」になってしまい、「しきし」と読んで、まったく別のものを表します。誤解がありますので、ここではやはり「おりがみ」としましょう。

「千代紙」「包装紙」「カレンダー」などを「おりがみ」として、利用することもあります。

紙ヒコーキならば、長方形のコピー用紙、新聞の折り込み広告の紙も良いでしょう。

「折り紙」「折紙」（漢字表記）・・・

これらは「申し込み」と「申込」、「締め切り」と「締切」の差ほどで、あまり違いはありません。あまりきつくならないように「折り紙」と表記し、広く折る行為を含め、折った作品を意味することになります。

第一章 実際、折り紙を教える、指導する、その方法についての考察

各所で開催される「折り紙教室（ワークショップ）」では、何かしらの「タイトル」が与えられますから、「今日は〇〇を折ります」と言う形になりますが、しかし、いつも、折るものを先に知らせるとは限りません。何を折るかわからないが、折っていくうちに何かになる。と言う指導方法があってもよいと思います。

「何を折るか」はもちろん大切です。しかしそれ以上に、何を折るにしても、その過程を大切にしたいのです。ですから、それはすなわち、「何を折るか」ではなく「どう折るか」に配慮することになります。指導者の立場で言えば「どう折らせるか」・・・これは、上から目線ですから、言い換えれば「どう折るようにするか」「折れるようにするか」

そのことに関して、今まで、その指導方法については、あまり発表されていないと思います。

何歳児のこの時期にはこんな作品が折れます。とか、何歳児にはこのようなものを折らせると良い。あるいは基本形に基づいて、このような順に折っていけば良い。と言った、折る対象物が列記されていることが多かったように思います。

指導する立場にしても、「何を・・・」に目が行き、そのためにどう折っていくか、その工程をシミュレートすることに終始します。そして、折ることができるそれ以前の問題として、折る主体の人あるいは子が、どの程度の技術を持っているか、どれほどの理解力を持っているか、そのことには、あまり注意が払われていないような気がします。

一律に指導をするために、大きな紙を用意して、果てはプロジェクター、さらにパワーポイントで・・・もちろん方法論的に間違っはしませんし、指導の方法を工夫することに異論を唱えるつもりもありませんが、しかし、これって、教える側の自己満足になっていませんか？

一人ひとりが、正しく、作品に向かって折り進んでいく。その過程を一步ずつ踏まえていくにはどうしたら良いか、そのことをもう少し考えて行きたいと思います。

「折り紙」を折るときには、カンニング？は「あり」です。カンニングは不正行為ということですから、正確な意味ではちょっと違いますが、折れないならば、となりの人、周りの人に聞けばよいと思います。それは、決して不正行為ではなく、見ても聞いても「良い」わけですから、見て聞いて、自分で折りましょう。そうすることで「折れた自分」を認識し、自分を肯定視することができます。そのことは、脳（気持ち）がとても気持ちがいいと感じている状態だそうです。気持ちがいいことだけを記憶して先へ進めたら、うれしいですね。要するに、折ると言う行為の中では、自分が折れないと言うことを、悲観することは全くありません。

自分でうまく折れないとき、わからないときは（わかることのほうが、もちろんいいに決まっていますが）折ってもらったり、教えてもらってもいいと思います。そのほうが、気持ちがいいならば、無理をしなくて、そうすることが良いと思います。無理して、いやいや折ることは、もちろん折れるならばそのほうが良いのですが・・・泣きながらがんばるのは、折れることで自信になればよいのですが、そのことで折ることがいやになってしまうことだけは、避けたいと思います。今折れなくても、いつかは折れるようになりますって、信じて先へ進みましょう。

さらにいえば、自分が折れたからと言って、折れないとなりの人を冷たい目で見ていただけではなく、

「おせっかい」を焼いてください。その人が嫌がらない程度に。

助けて欲しいような気持ちを汲んで、助けてあげてください。助け方は「折ってあげる」のもいいですが、「見せてあげる」「言葉で教えてあげる」「折りかたを示してあげる」など、いろいろな方法があります。そしてその時には、教える側に、充実感、満足感、時に優越感が生まれます。充実感、満足感は、自分を肯定することに一役担ってくれます。優越感は勝手に優越感ですから、対極には劣等感は存在しません。自分だけの優越感だと考えてください。

そう言う場では、当然会話が生まれます。一人さびしく折り紙を折って欲しくはないですね。

と言うわけで、教室を始める前に、必ず参加者には、となりどおし、最初に少しお話をさせていただきます。自己紹介でもいいでしょう。挨拶だけでもかまいません。今から一緒に折り紙を折るわけですから、「とにかく、楽しく『折り紙』をしましょう」ということで、お互い助け合いながら、進めるようにします。そのほうが、心が（脳（気持ち）が）、嬉しい、良かったと感じるはずですから。

「折り図」を見ただけでは、なかなか「折り紙」が折れない。ということをよく耳にします。思い起こしてみてください。みんな、小さかった時（幼少時）、どうやって折り紙を折っていましたか？

幼稚園や保育園の先生に教えていただいた「折り紙」を自宅に持ち帰り、お母さんに見せて、ほめてもらって、嬉しくてたくさん同じものを折った経験はありませんか。自分が折れるようになった「折り紙」を自慢げに、友だちに教えてあげたり、違う作品を教えてもらったり、それこそ教えあっているいろいろな作品を折った経験はありませんか。いずれにしても、「折り紙」は、人から人へと、手から手へと、折り伝えられてきたのではないのでしょうか。だからこそ、折り図を見て折るという経験をする子はほとんどなく（もっとも、折り紙の本もそれほど多くは出版されていませんでしたから）、よほど折り紙が好きでいろいろな作品を折りたかった子が一生懸命読解して、挑戦していたのではないのでしょうか。「折り図」は、決して、折り手が折り易いように書かれたものとは思いたい部分があります。極論を申せば、作者（創作者、考案者）が、自分の作品であることを発表するために、自分でその折り方を忘れないために書かれたものであると言っても、過言ではないような気がします。

ですから、単に「折り図」を見て折れないことを、悲観することはありません。むしろ折れなくて当たり前ですし、やはり、誰かに教えてもらったり、教えあったりして「折り紙」を折って欲しいし、そうすることによって、先に述べたように、「折り紙」を媒介として、友だち同士のつながり、親子の人間関係などを大切にしたいと考えています。

以上、いろいろな私見を述べさせていただきましたが、そういったことを踏まえて、いよいよ「折り紙」をはじめます。先にお話ししたように、「どう折るか」そのことに関して、次からは、具体的な方法をお話ししていきます。

第二章 基本形の考え方、折り方

「基本形」を基に考えることは重要だと思います。基本形を理解し、マスター（いつでも折れる）ようにしておくことで、いつも第一歩から指導するのではなく、基本形からスタートすることができるからです。どのような「折り紙」を、どの基本形から折り始めるか、そのことを考え、準備することは指導者として意味のあることです。少なくとも「基本形」には、一つひとつ名前がついていますから、その名前もふくめて、ちゃんと折れるようにしておきたいものです。

1 「三角山の基本形」

正方形を三角に折る。最初の一折りですから、この形を「基本形」と呼ぶのは余り適当ではないかも知れませんが、これを「三角山の基本形」とあえて「固有の名前」をつけることで、「三角に折りましょう。」と言う説明も、また実際に折ってみせる必要もなくなってきます。

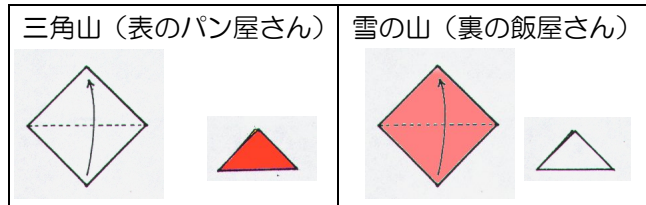
しかも、最初の一折りは、紙を裏にして折る場合と、表にして折る場合とがあります。

裏面から見れば、折り筋が、谷折り線あるいは山折り線になるわけです。「何を折るか」その目的に向けて、最初の一折りを、どちら側に折るかは、とても大切なことなのです。

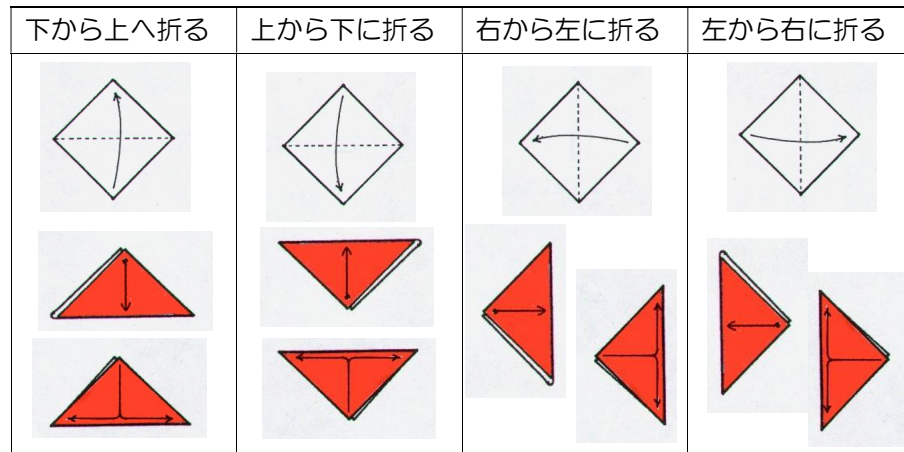
そこで、表が出る折り方を「三角山」、裏が出る折り方を「雪の山」など、固有の名前をつけて、そう言うだけで、その折り方ができるよう、繰り返し指導していきます。

最近、小学生を対象にすることが多いです。すると特に「雪の山」を折ると、決まって、それを両手で持ち、額につけて、見せ合います。まるで「幽霊？」のように。そこで最近では「裏の飯屋さん（うらのめしやさん）」などと呼んでいます。と、なると、表に折る場合には、「表のパン屋さん？」、要は、その場にいる皆が、その形をその名前で認識できることが大切だと考えたのです。

折り図としては、



紙を裏にして、三角に折る、たったそれだけのことなのに、その折りかたは、当然幾種類もあると思います。その人の得て不得手、あるいは癖、その他の理由で、そうなると思います。



どの方法

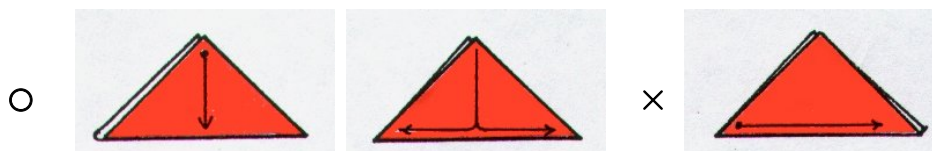
で折るに

しろ、折り図としては一種類です。それは次の図が不自然にならない角度で描かれるだけのことで、いちいち角度を変えたり、裏返したりするのは大変ですから。そして、どことどこを合わせて折ると、きれいに、きちんと折れるか？

すなわち、三角にきれいに折るその折り方（コツ）に関しては、次のように折ると良いと思います。

結論としては、対角の角（かど）と角（かど）とをあわせることです。そうすれば、自然に、折られた角はとがります。そうしておいて、折り筋の中心あたりに、手をスライドさせ、折り目をつけた後、そこを押さえ、右、左手をスライドさせて折るほうが良いと思います。

折られるひとつの角に注目する余り、対角が合わない折り方をする子がいます。細かいところに注目する余り、全体としては、角がずれてしまう結果は、これこそ本末転倒と言うべきでしょう。



「三角に折る」その行為と、色を表に出しておく。その折り方に名前をつけて覚える。

色を内側にして折る。その折り方と、その名前を理解でき、折ることができる。

すなわち「三角山」なのか「雪の山」なのか、

別の言い方ならば「表のパン屋さん」なのか「裏の飯屋さん」なのか、それがわかり、それができれば、この基本形の指導は終了です。

あとは、できた三角で、「どう遊ぶか」それは、皆さんのアイデア次第。

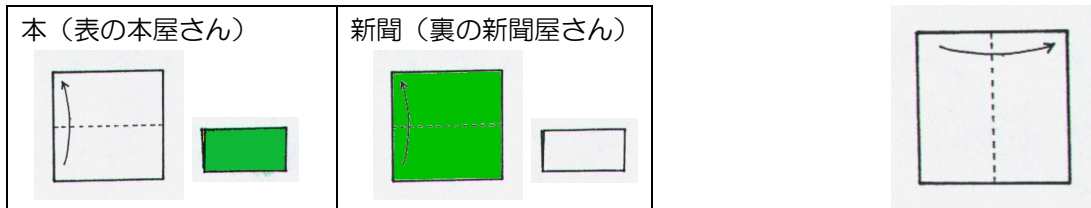
2枚合わせたまま、チョキチョキ切ってしまうのも、面白い。

その三角をたくさん集めて、構成遊び。こいのぼりのうろこに、たくさんの上に、木に、見立てることは、容易にできます。

三角の形から、「自由に折って動物の顔にする」と言うのはいかがでしょうか。ちょっと難しいかもしれませんが、そして概念になると言えばそれで終わってしまいますが、イメージですから、犬に見えたり、猫に見えたりはできるはず。それを「お面にする」事もできますね。

2 「折り本の基本形」

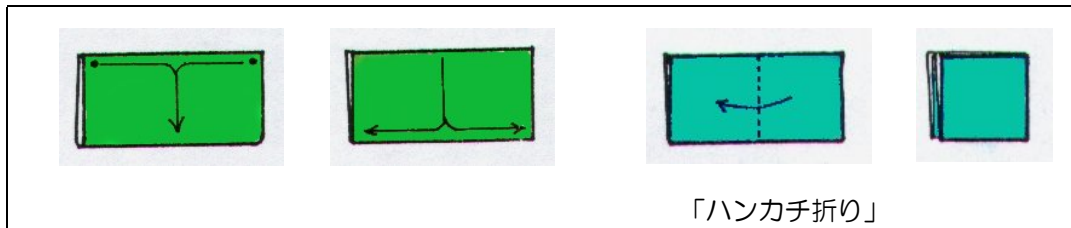
同様に、最初に、あるいは最初ではなくても、「長四角」に折る場合があります。これにも名前をつけてしまいます。「本」折りとか「折り本の基本形」などと呼びます。しかしこの折り方も、紙を裏にして折る場合と、表にして折る場合とがあります。すなわち折った後に表が出るか、裏が出るかということです。表が出る折り方を「本」というならば、裏が出る折り方は、白い面が外側になりますから、「新聞」と名づけました。児童の前では「表の本屋さん」「裏のしんぶん屋さん」と言っています。



ところが、その折り図ですら、折り本と言うからには、右図のようにたとえば、左から右へと言う折り図になっているかも知れません。だからと言って、そのように折らなければいけないかというと、そうではなく、自分の折りやすい方向に折ればよいのです。折った後、折り図と同じ向きに置き直せば良いのです。それは、できるようにしておいてください。できない子がいる場合は、向きを直してやってください。

折り図を読み解く力・・・は大切です。パズルの回答のようです。あるいは、プラモデルの説明図のようです。今折る行為の図は、次の図のようにになっているかを確認しながら折り進めなくてはなりません。ですから、折り図も確認しながら指導することで読み解く力をつけてやってください。

そして、長四角に折るその折り方に関しては、先にも述べましたが、どちら側から折るかは個人の問題です。折りやすい方向に折ればよいのです。ただ折った後は、次の番号の図のように方向を同じにして置いてください。さらに「きれいに折る」あるいは「きちんと折る」その方法に関しては、「三角山」の時は、対角の、角と角とを合わせました。すなわち、点と点を合わせるということでした。それに対して「折り本」に折るということは、対辺の辺と辺とを合わせて折るということです。角と角とを合わせてもずれることがありますので、辺と辺とをあわせた後、中心あたりから、折り筋のところに一旦手をスライドさせ、折り目をつけた後、右左と折ればよいと思います。下図参照



ここでは「本」なのか「新聞」なのか、覚え易く言えば「表の本屋さん」なのか「裏の新聞屋さん」なのかを知り、そのとおり折れることができれば、この基本形は終了です。

おまけの指導

右図の、折り本をさらに半分に折る折り方、これを私は「ハンカチ折り」と呼んでいます。「ハンカチ折り」から「ふくろ折り」を繰り返して「風船の基本形」を折るために使います。

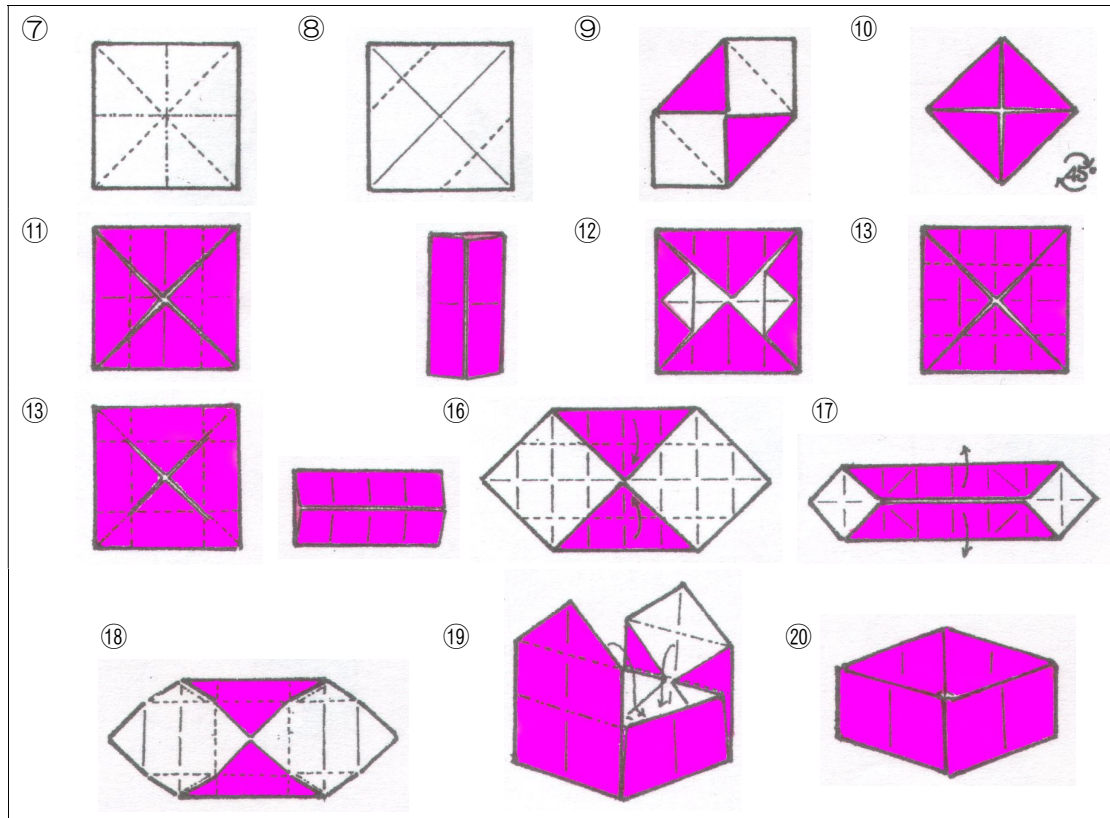
3 これまでのお話で、ひとつひとつの形に「名前」をつけてしまえば、その「名前」を覚えてしまえば、折り紙を指導するその方法が、かなり楽になるとは考えられませんか。それができたら、折り紙の見本が不要になります。「こう折りましょう」という手本が不要になります。

そんな具体例をひとつ紹介します。「何を折るか」は、最後まで言いません。

- ① おりがみを1枚用意します。白い面（裏）を上（見えるよう）にして置いてください。
- ② まずは「三角山」の基本形。「表のパン屋さん」、折ったら開きます。
- ③ 90度回転させてもう一度「表のパン屋さん」、折ったら開きます。
- ④ 裏返して「折り本」の基本形「裏のしんぶん屋さん」、折ったら開きます。
- ⑤ 90度回転させてもう一度「裏のしんぶん屋さん」、折ったら開きます。
- ⑥ 裏返します。（白い面を上におきます。）
- ⑦ 折り線を良く見てください。縦横斜めの「米」の字のように折り線がついています。
いつもなら、ここで、一旦「裏の正方基本形」「表の風船基本形」を確認します。
- ⑧ 白い面を内にして、四隅からそれぞれの角を中心に向かって折ります。（座布団折りと言う）
まずは、ひとつの角を折ります。
- ⑨ ついで、反対の角を折ります。このときできた形に名前をつけます。
これはその場で、一番最初に「〇〇に見える」と言った、その子（Aちゃん）の発表を尊重し〇〇と命名します。その他にも、何かに見える他の子の見立てはすべて認めてやってください。
しかし、今回はAちゃんの言った「〇〇」
- ⑩ 残りの二つの角も中心に合わせておきます。（座布団折りの完成）
- ⑪ 次いで、「ドア折り」をします。日本でしたら「仏壇折り」と言っています。日本の子どもならほとんど、どこかで「お仏壇」を見たことがあるようです。
「ドア折り（かんのん折りとも言う）」は縦中心線に向かって左右の辺を折る折り方です。が、折りやすい方向から折れば良いと思います。上からでも下からでも右からでも左からでも・・
ただし、折った後は左右から折った形にして置いてください。
- ⑫ 一度左右に開いて見ましょう。その時、白い二つのひし形が目のような形で残ります。「何に見えますか」あるいは「動物が隠れています。何でしょう？」と尋ねてみましょう。
「ネコ」に見えませんか？ 見えたら、目を閉じさせて、90度回転させます。
- ⑬ 先ほどと違う方へ、「ドア折り」をします。今回も勝手に開かないように少し待ちましょう。その間に「ドア折り」の折筋をしっかりつけておきます。⑪と⑬の線は、この折り紙ではとても重要な折筋になります。
- ⑭ 開いて見ましょう。「今度は何に見えますか」「ある鳥が隠れているのですが・・・」「目の大きなミミズクやフクロウに見えますね」見えたら、一旦目を閉じます。（自分のじゃあないですよ）
これで、すべての折筋ができました。「これからは、新しい線をつけてはいけません」
- ⑮ 先ほどの〇〇の形にしましょう。そう、二つの角を開いて戻すわけです。
- ⑯ 今度は、細い〇〇にしましょう。（ドア折りの線を延長するわけです）
- ⑰ 今折った部分を、直角に立てます。「何に見えますか？」「船？」「それはさかさま」「鉄橋に見えたら正解」
- ⑱ 左手で中心のリボンの形のところを押さえます。右手で端っこのとがった部分を持ち上げて見

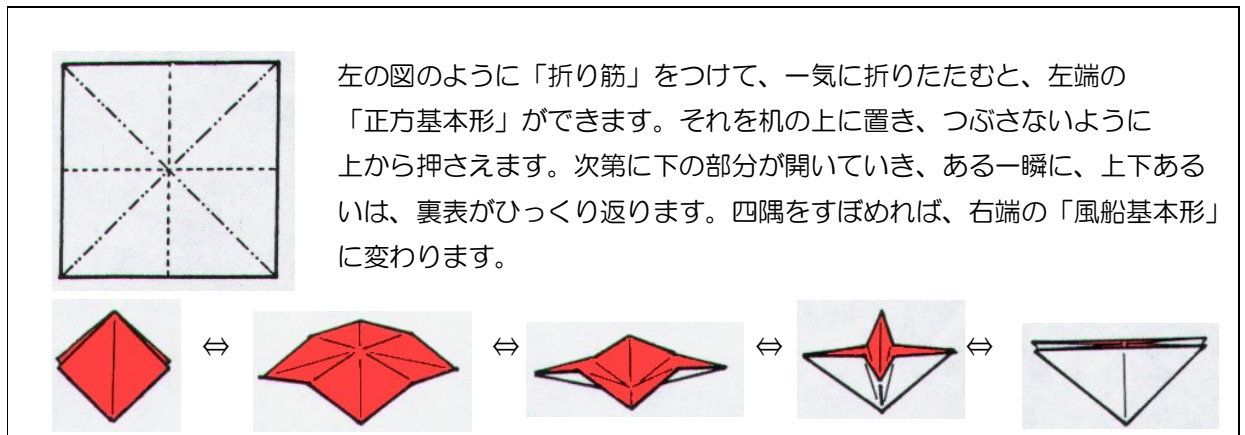
ましよう。中心の正方形の辺の部分で立ち上がると思います。(左利きの人は反対の手で・・・)

- ⑱ 今度は立ち上がった部分が、折筋のとおり、内側に折れ曲がって、入ると思います。
(この段階で、これが「箱」になることがわかり、歓声が上がると思います)
- ⑳ 反対側も同様に折れば「箱」の完成です。



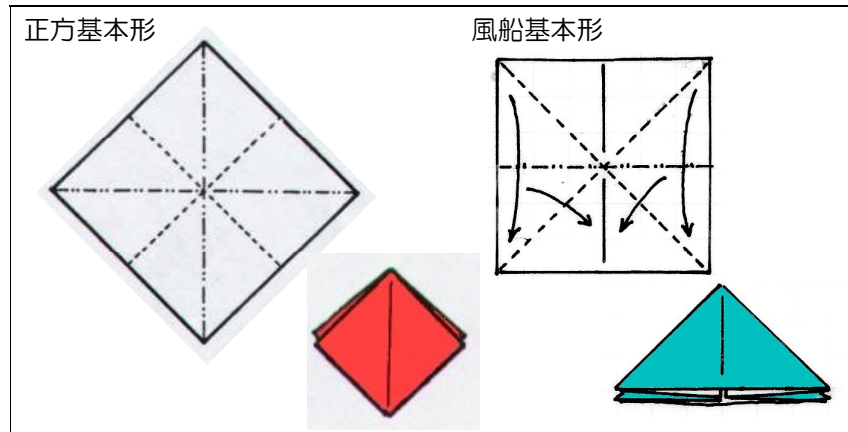
4 「正方基本形」と「風船基本形」

この二つが、まったく裏表の関係になっていること。このことがわかっていますか？



この場合は、色表の「正方基本形」になり、「色裏の風船基本形」になりますから、色表の「風船基本形」にしたい場合は、それぞれ山折り線、谷折り線を逆にすれば良いのですが・・・

とすることで、「正方基本形」「風船基本形」を、折り図を見ただけで、理解できていますか。



この折り図は、ひとつの面に、山折り線と谷折り線が同時に存在します。

ということは、あらかじめ必要な折り線をすべてつけておいて、一気に折りたたむという折り方をします。特に「不切一枚折り」を条件に折る場合は、そのような操作を繰り返すことになります。

この方法は、形が単純なうちは比較的容易に折ることができます。

幼児、児童に「正方基本形」「風船基本形」を指導あるいは折らせる場合はこの方法をよく用います。

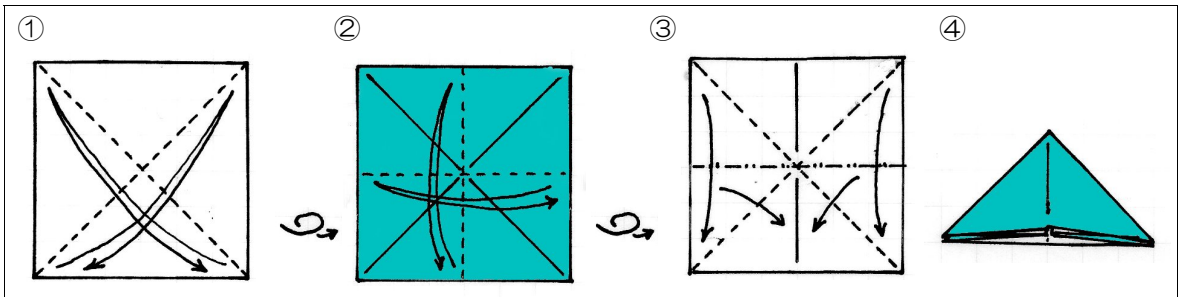
しかし、大方の「折り紙」の書籍では、「正方基本形」「風船基本形」の折り方は上記の方法ではありません。

順に折り進めることで、「基本形ができあがる」方法をとります。そのほうが図がわかり易いからです。図がわかり易いことと、折り易いこととは、違うようです。「袋折り」という、技術が必要な折り方をするからです。この「袋折り」がなかなか、難しい。だったら、「そのほかに方法はないだろうか？」

5 「正方基本形」「風船基本形」を4種類以上の折りかたで折ることができますか。

「風船基本形」を例に説明します。

1 あらかじめ「折り線」をつけて折る方法

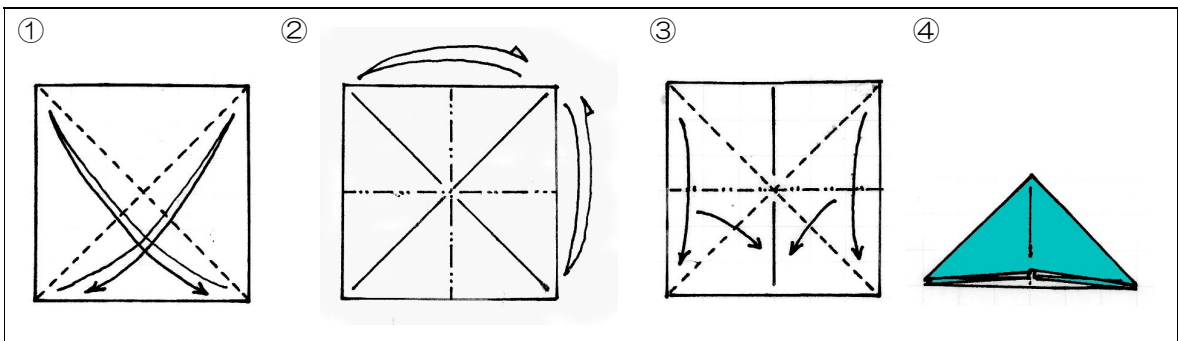


先に説明した「表のパン屋さん」開いて「表のパン屋さん」

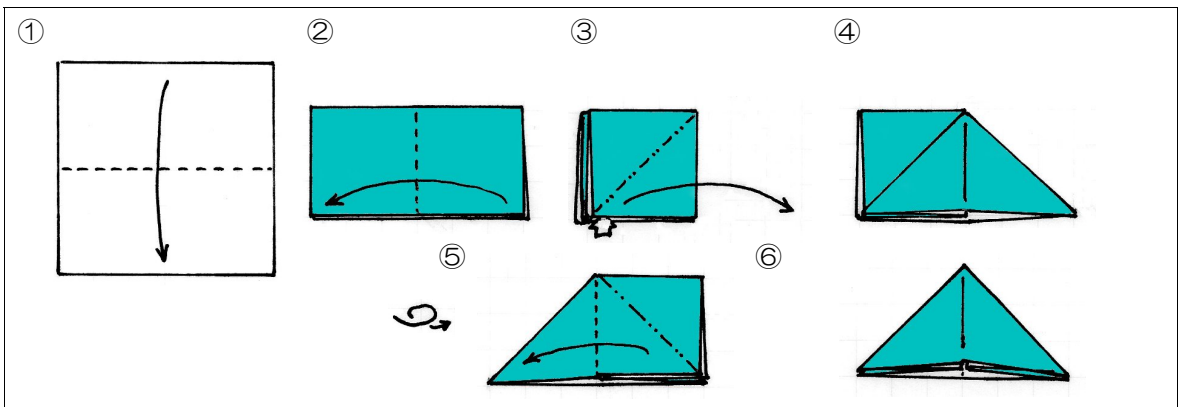
「裏のしんぶん屋さん」開いて「裏のしんぶん屋さん」

そのことが解っていれば、容易に折ることができる方法です。

もう一度「折り図」について・・・上の図は、逐次裏返していますが、これを裏返さないで図にすると、下の図のようになります。どちらが良いとはいえませんが、どちらの折り図でも折り方を読み解けるようにしておくことが、大切だと思います。(②の部分が変わります。)

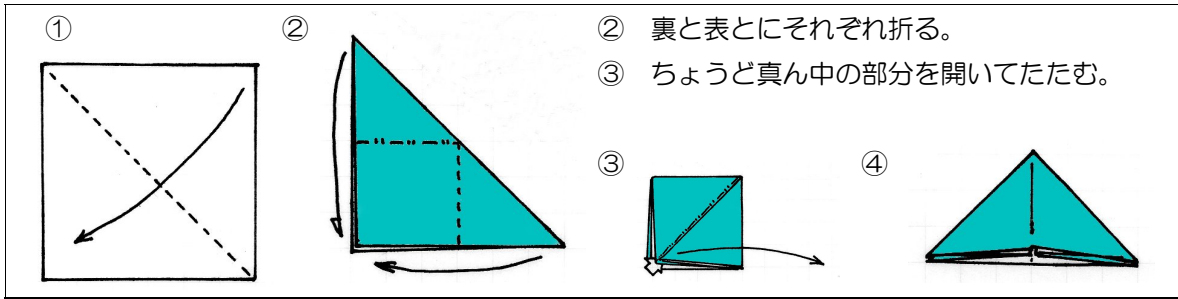


2 よく紹介されている、「袋折り」をする方法。

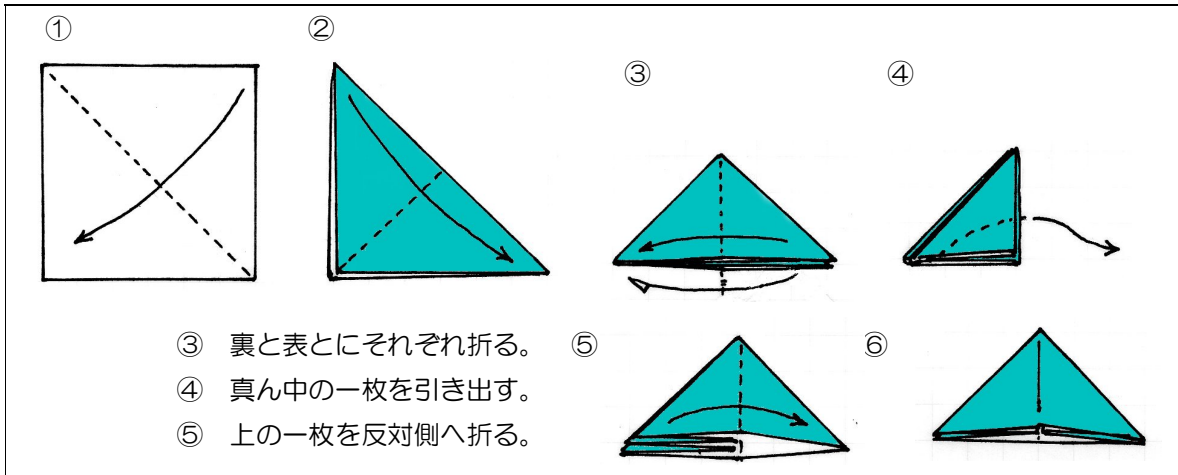


「袋折り」と言う、技術としての折り方に関しては後述します。技術ですから、折ることに関して、「コツ」があります。技術ですから、練習することで上手くなります。逆に言えば、練習しなければ上手く折れません。技術は習得するものです。

3 同じく「袋折り」をしますが、一回だけで、すみます。



4 さらに変則的かもしれませんが、意外と簡単です。



今回「風船基本形」で折り図を記しましたが、「正方基本形」の場合は、「表のパン屋さん」が「表の本屋さん」になると言う風読み替えて考えてください。

以上4つの方法は、どれが良いとか、悪いとか、どれでなくてはいけない、と言うことではありません。

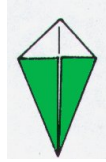
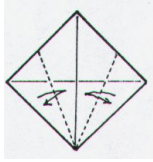
「何かを折る」そのために「どう折るか」を考えて、その折り方を使えばいいと思います。先の「箱」を折る際にも、一旦「風船基本形」を折りますが、決して「風船」を折るのではなく、その線が「箱」を組み立てるのに有効だからそうしたので。そのように、必要な線ならば、前もって楽しく折って置きたいものです。そうすることで、後で楽になるならば、それは必要なことだと考えます。

ひとつの形を完成させること（目的のものを折ること）に際し、どう折るか、どう折らせるか、指導者ならば、その方法をいくつも考えること、この方法がだめなら、ほかの方法を試すこと、そんな謙虚な気持ちを忘れないでいただきたいものです。

とにかく、みんなで、楽しく、ある意味「楽に」、折りたいものです。脳（気持ち）が「嬉しい」と感じられるように・・・『折り紙』って、楽しい！』ものです。『折り紙』って、楽しい！』と感じて欲しいものです。

6 「ソフトクリーム（凧）の基本形」

「さかなの基本形」の前に、「ソフトクリームの基本形」を折ってみましょう。



別名「凧の基本形」と言いますが、日本の凧と言うより、西洋の凧のイメージです。

この折り方は、意外と難しいのです。その理由は、45度をさらに1/2の折るわけです。すなわち22.5度で折る。そのとんがり具合が幼児にとっては、きついです。慣れてください。

ここで、この基本形のエピソードをひとつ。

T「皆さん、好きな色のおりがみを持ってください」

C「はーーーーい」

T「まずは三角山（表のパン屋さん）に折りましょう」

C「はーーーーい、できました」

T「次に、ソフトクリームを折りますよ、まんなかで右と左の辺を合わせてくださいね。

下はとがらせてください。ソフトクリームが溶けて流れちゃうよ」

C「はーい」

T「何味のソフトクリームができましたか？」

C「まっちゃん味」

C「チョコレート」

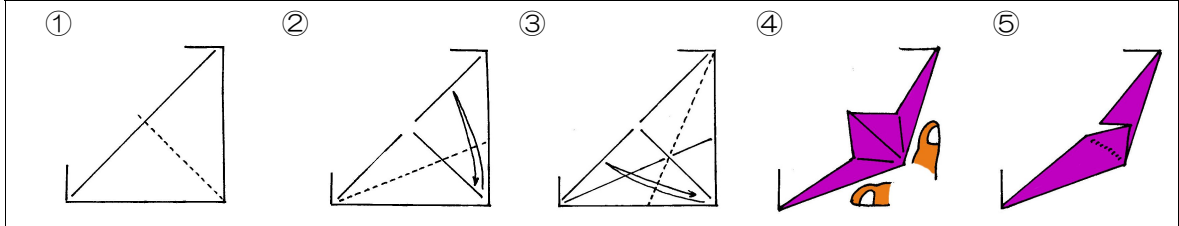
C「ストロベリー」

C「オレンジ」……

T「????????」「どれも、バニラ味のはずなんだけど」

7 「さかなの基本形」

形としての基本形ではあるのですが、折り方（技術）としての基本は、「つまみ折り」をします。「つまみ折り」これもけっこう、むつかしい・・・らしい。実際に現場で、違えて折ってしまう例を挙げながら、「つまみ折り」の練習をしてみましょう。



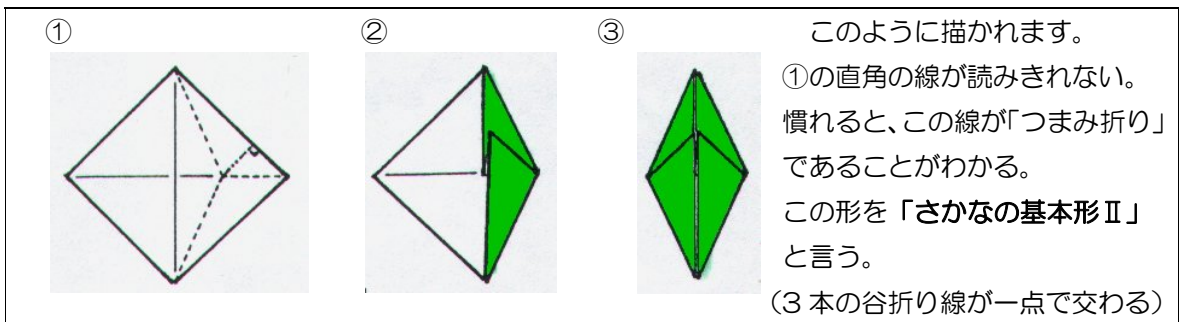
まずは、①②③と折り筋をつけます。

次にその角を、つまんでみましょう。

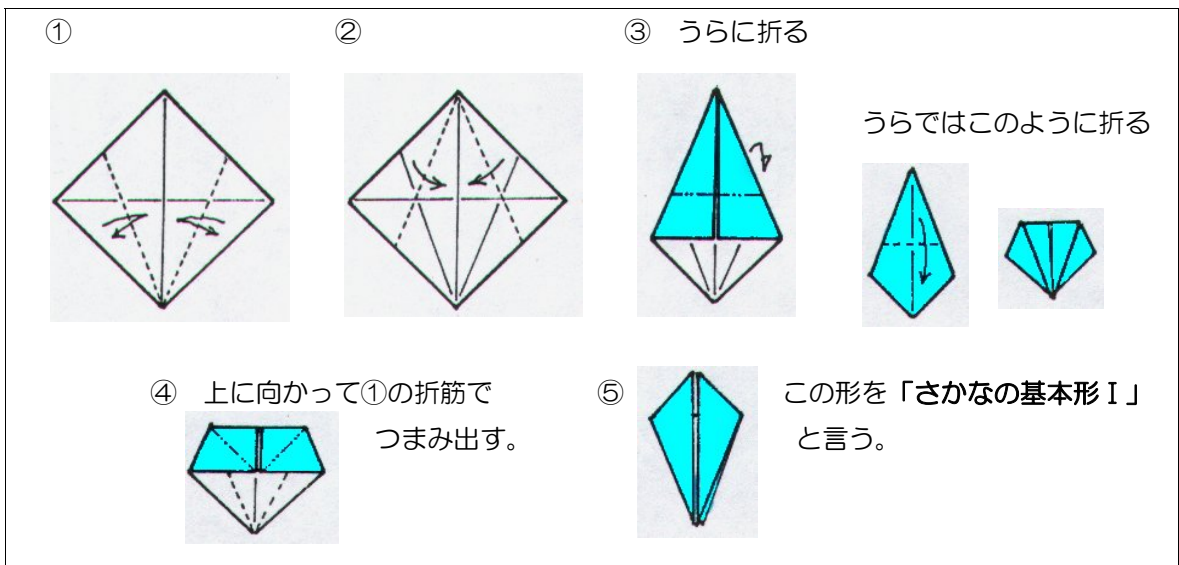
すると ②③の線を意識して、④図のようにつまんでしまいます。

本当はつまみ出して折るのですから、⑤図が正解

これを両側折れば「さかなの基本形」の完成 折り図としては・・・



両側を一緒に折る、別の折り方です。基本形の名前もふたつあります。

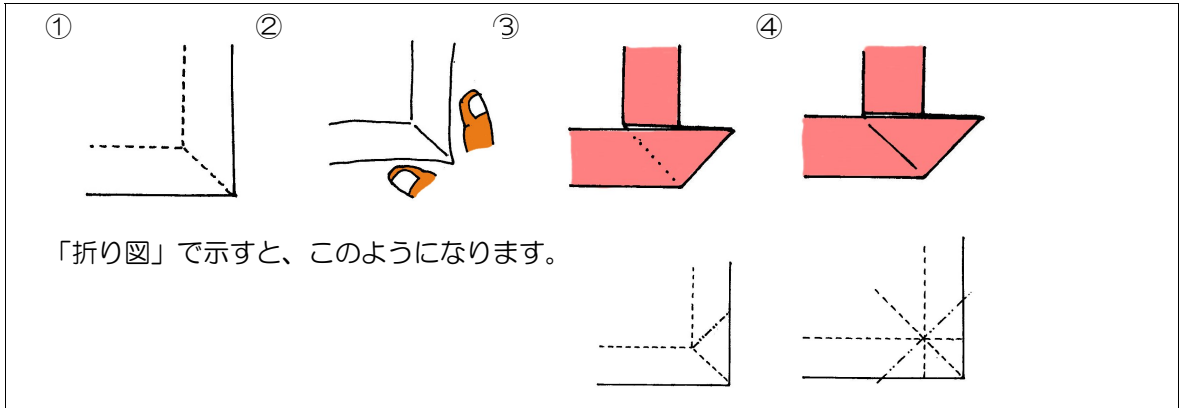


8 「二そう舟の基本形」

この基本形ほど、私を楽しませてくれる基本形はありません。

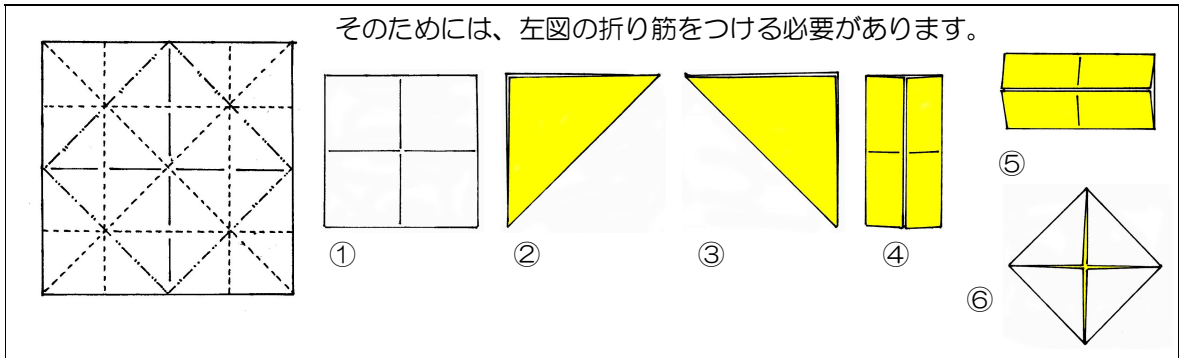
いろいろな方法で挑戦してみます。

直角な二辺に平行な線でつまみ折りをする。「つまみ折り」をもう一度確認しましょう。



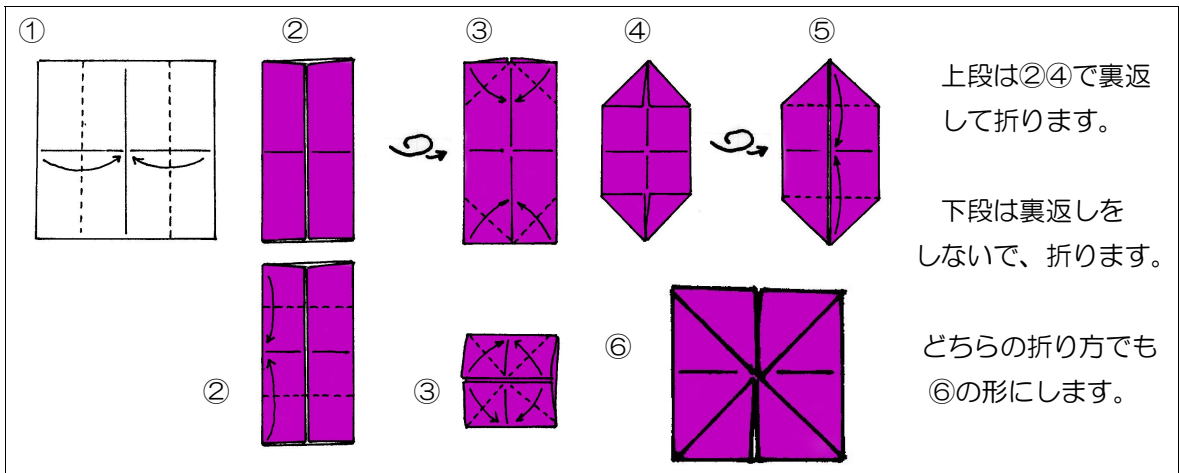
1 この「つまみ折り」を四隅で行うと考えてください。折り図としての「二そう舟の基本形」

そのためには、左図の折り筋をつける必要があります。

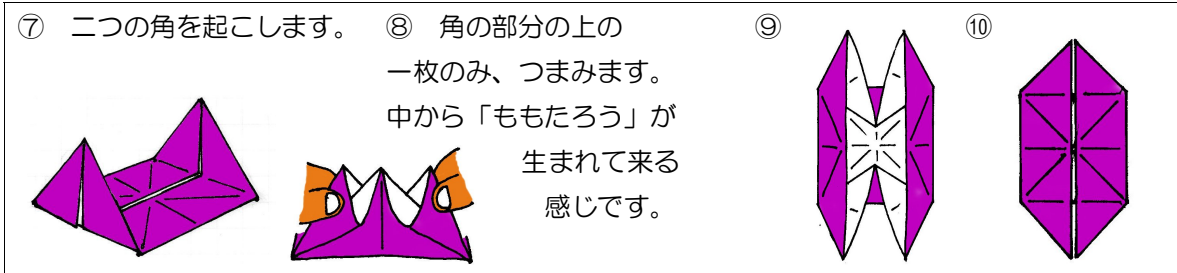


前もってこれだけの折り筋をつけておけば、容易に「二そう舟の基本形」になるはずですが。

2 さらに別の方法で挑戦してみましょう。折り方としての「二そう舟の基本形」

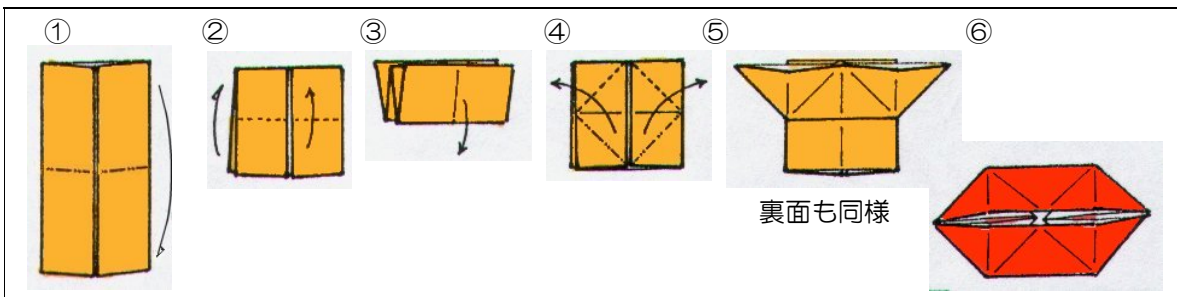


この⑥の形から、通称「ももたろう折り」をします。って「なんじゃそりゃ??」



この折り方を知っておきますと、いろいろな折り紙で応用できます。
ところが、折り紙の書籍には、このように折り方が丁寧に記されているとは限りません。

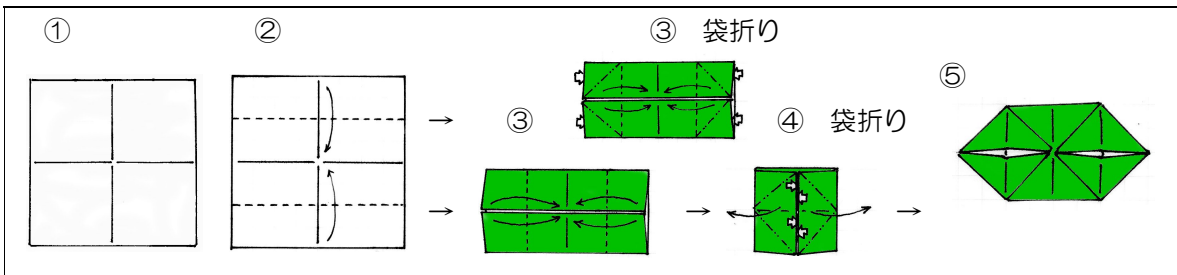
3 一般的には下図のような表記がしてあります。



まあ、折れないことはありませんが。折り方としてはどうでしょう。④の谷折り線と山折り線が同時に存在し、かつ引き出すように折る際、できれば、最初の段階で「三角山」を折っておいたら、多少わかりやすく（折りやすく）なるかもしれませんね。

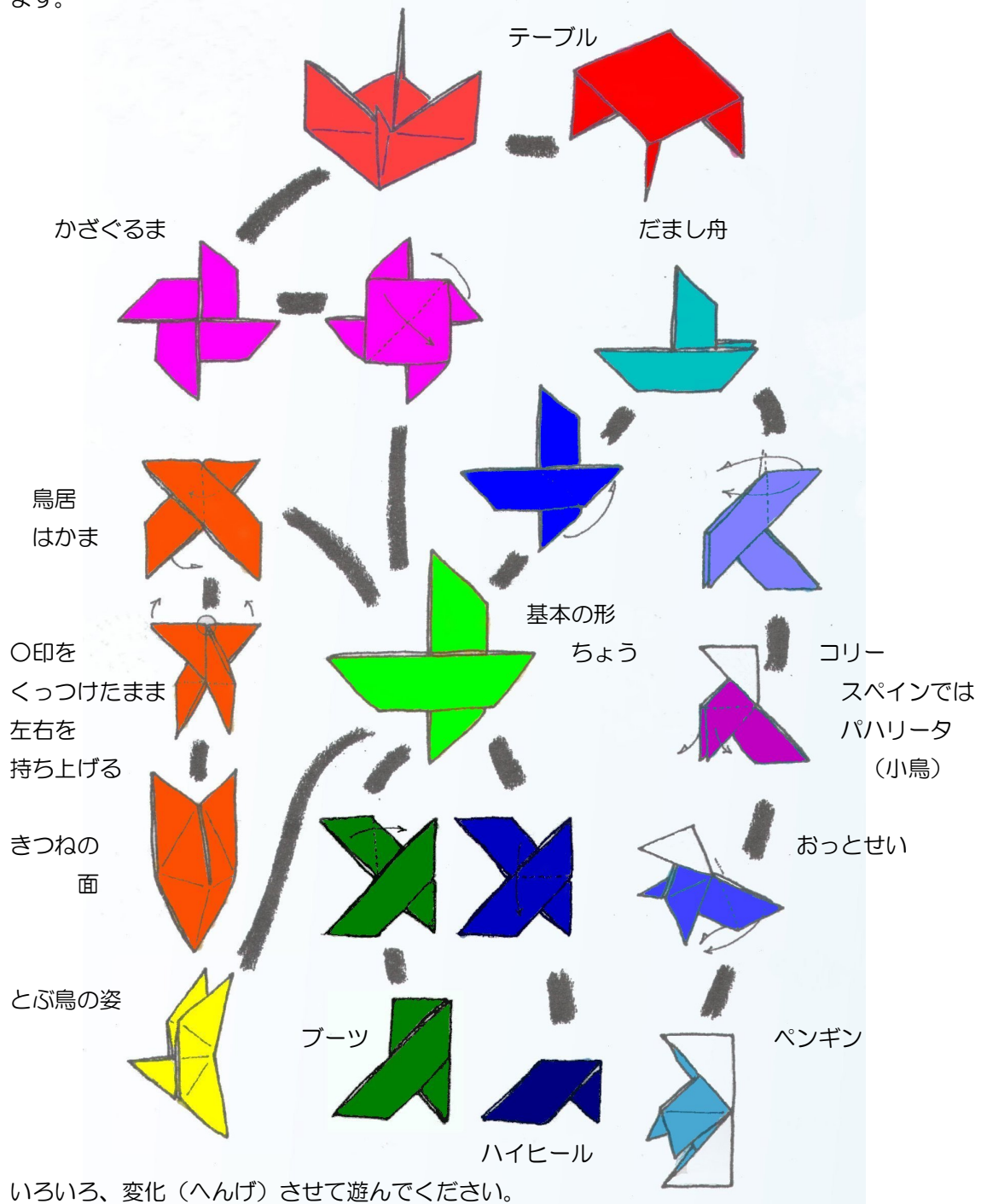
そして、この「二そう舟の基本形」は、「がにまたシリーズ」の手足として、さらには2倍正方形から「カラフル虫シリーズ」の6本足として、私の作品のなかに多く登場することになりました。

9 「プタの基本形」って？ あえて、「二そう舟の基本形」とは違う、ということをお願いのために。



10 「だまし舟」にだまされるお話

「だまし舟」の遊び方は知っていますね？「だまし舟」は「二そう舟」を開いたところから始まります。



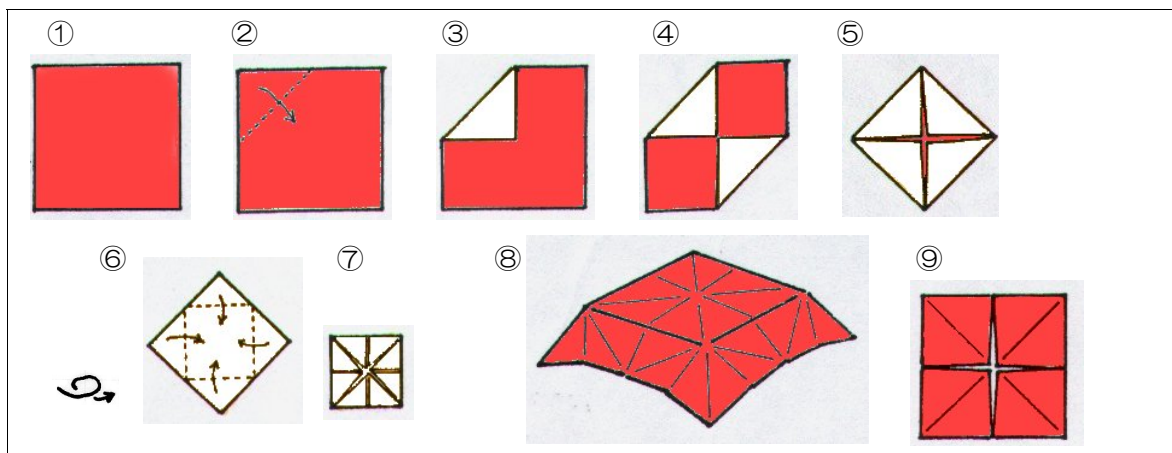
いろいろ、変化（へんげ）させて遊んでください。

ところで、この「だまし舟」・・・どうして、こんなに変化し、みんなをだますのでしょうか？
ある動物が隠れているのです・・・と言って、さいごに「キツネ」に変化させると・・・

いろいろ変化させるなかで、「かぶせ折り」も出てくるのですが・・・これは後述

11 「テーブルクロスの基本形」と「二そう舟の基本形」は兄弟です。

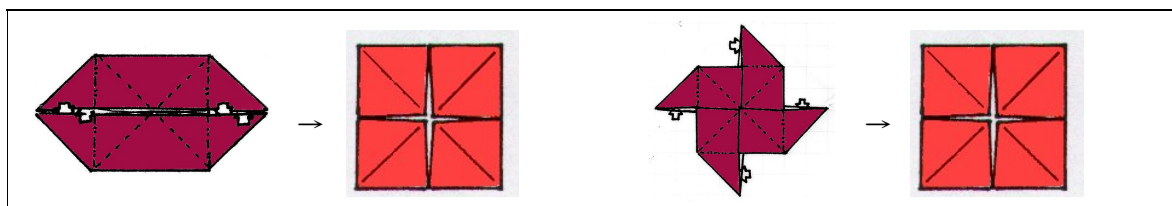
まずは「ざぶとん折り」から（「テーブルクロスの基本形」を折るために色を内側にして折ります。）



- ① おりがみの中心はどうやって見つけますか？
 - i 三角山、三角山 あるいは 本 本 と折ることで、交点を中心とする。
 - ii 求めた中心に、前もってピンホールを空けておく など工夫してください。
- ② まずは一角（一隅）を中心に向けております。
- ④ 次、基本的には対角を折ります。頂点同士が合うことで確認できます。
- ⑤ 残りの二角（二隅）も同様に折ります。（この折り方が「ざぶとん折り」）
- ⑥ 裏返して、再度「ざぶとん折り」をします。
- ⑦ 「ざぶとん折り」を2回、繰り返すことになります。（やっこさんは3回）
- ⑧ ⑦まで折ったら、一旦、すべてを開いて、図⑧のように置いて見ましょう。
この形が「テーブルクロス」の名前の由来です。
- ⑨ 再度裏返して、四隅をたたみ直せば、「テーブルクロスの基本形」の完成

この折り方は「二そう舟の基本形」8-1とまったく同じです。角を尖らせるか、「袋折り」をするかの違いです。

したがって、8-2-⑩ あるいは 8-3-⑥からでも、同様に、「袋折り」をすれば完成です。さらに「かざぐるま」からでも4箇所「袋折り」をすれば「テーブルクロスの基本形」になります。



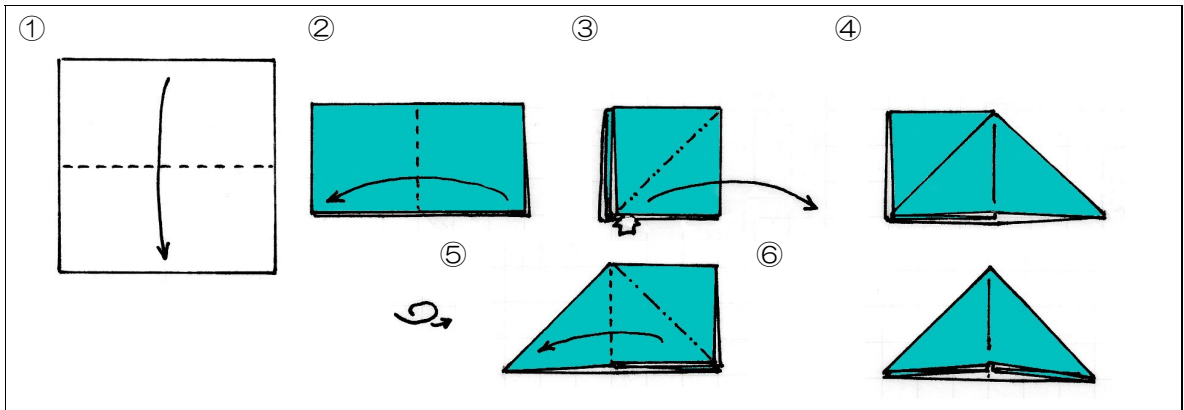
この「テーブルクロスの基本形」を別のものとするには理由があります。

この基本形は、幼児教育（特に幼稚園）での「フレーベルの折り紙美麗式」の基本となる折り方です。「花模様折り」と言えばわかりやすいでしょうか、上下左右に線対称になるように、あるいは、90度点対称になるように折りながら、いろいろな模様を折り出す、その基本形です。「くんしょう」や「花ゴマ」が有名です。折り出したものを組み合わせて「くすだま」を作ったり、単体を「容器」にすることもできます。折る分量の変化でさらに複雑なものもできるでしょう。

12 「袋折り」について・・・「引き寄せ折り」と、どこがちがうの？

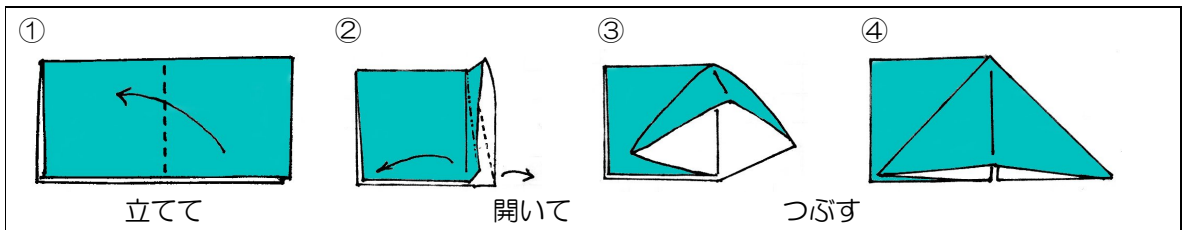
結論、「袋折り」は3ステップ（段階）、「引き寄せ折り」は2ステップ（段階）で折る。ということです。・・・何のこと？と思われるかもしれません。しかしこのことを頭の片隅に置いておいてください。忘れないでください。

再度「風船基本形」を例に、具体的に説明します。



折り図としては上記のように②から③あるいは⑤から⑥への「袋折り」に際しては1工程でしか表されません。

もちろん慣れればこの方法で構いません。しかし、教室で指導していると、不思議にだんだんずれていってしまいます。そこで、次の図のように3段階を分けて指導することにしました。この方が正しく折れるようです。

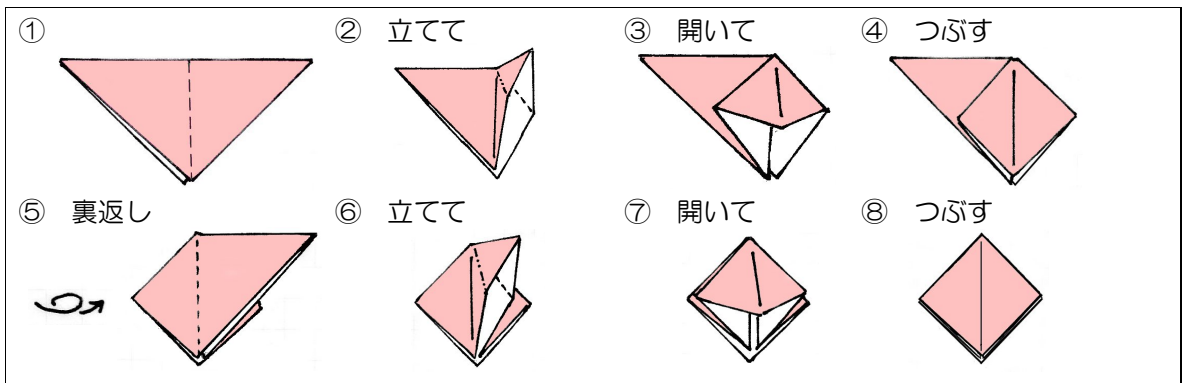


この、「立てて、開いて、つぶす」をお題目のように唱えながら折るとずれにくくなります。

「立てて」の一段階が、中心を明確にします。そのことでずれなくなります。開いて、つぶす、その時に、**中心線をあわせながら折れば、正しい「袋折り」**が折れるようになります。

中心線をあわせる必要がない「引き寄せ折り」とはこの点が違います。

「正方基本形」で説明してみましよう。



13 「折り鶴の基本形」 「正方基本形」から、「花卉折り」という技術（テクニック）を使用。

まず、「正方基本形」を折りましょう。次いで、多くの書には最初に「補助折り」という技術を使います。「補助折り」と言うのは、前もって「折り筋」をつけておくことです。

当然折ったら、戻しますし、次に、その折り筋をそのまま使用して、別の折り方をすることを意味します。

この図の②から③の折り方の工程を「花卉（はなびら）折り」と言います。

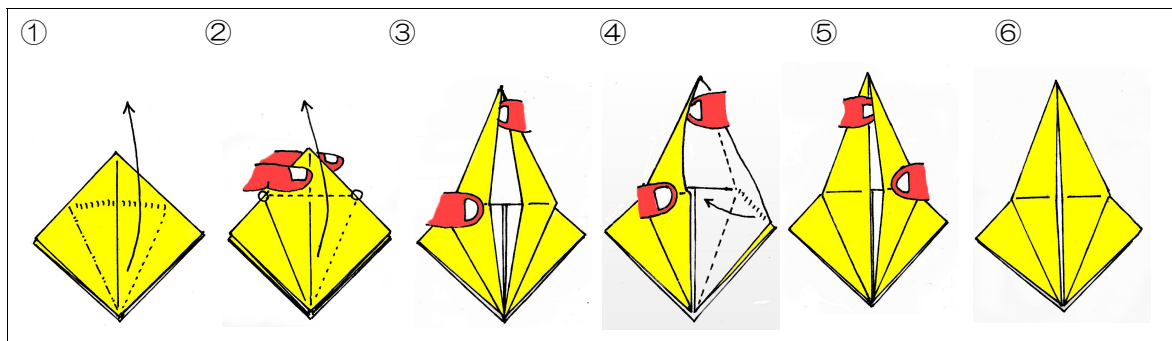
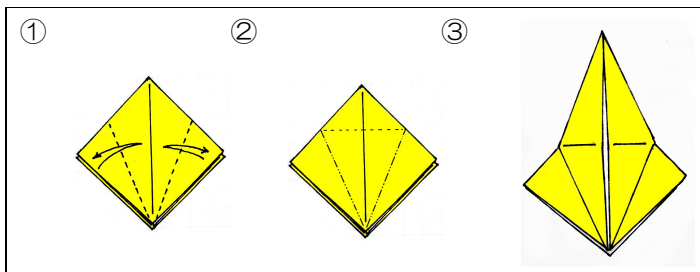
このテクニックについてもう少し説明をします。

一度折り筋をつけたにもかかわらず、もう一度その線で折ることが、意外とできないことが多いのです。新たに違う線をつけようとしたり、谷折り線が山折り線に変わること自体が受け入れられなかったり、当然角はきちんと尖るはずなのに、ずれてしまったりすることが多くあります。

この補助折りと言うテクニックは、慣れてしまえば必要のない折り方なのかもしれません。

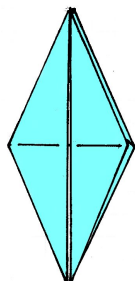
実際「中わり折り」や「かぶせ折り」の際にも補助折りをしますが、慣れてしまえば直接折ることは可能です。

ということで、「花卉折り」を補助折りなしで折ってみましょう。

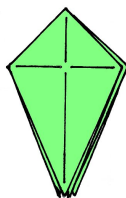


右利き用に説明します。

- ① 「こんな形になる」と言う、イメージを持ちましょう。
- ② 左手の、人差し指と中指とで、背の部分をはさみます。
- ③ 右手で、手前の一枚を持ち上げる際、左手の親指で中心部分を押しずらします。
- ④ 中心を合わせた後、右手親指のつめの部分で、上下の尖り部分を尖らせます。
- ⑤ 右手に持ち替え、左手の親指で中心を合わせ、左手親指のつめで、上下を尖らせます。
- ⑥ この形になったら、裏も同様に折ります。



折鶴の基本形Ⅰ

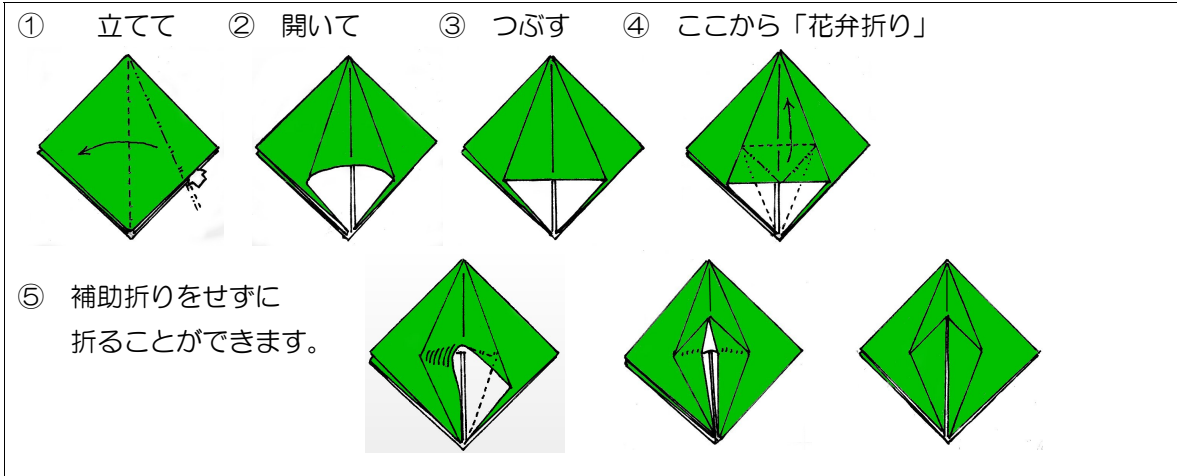


折鶴の基本形Ⅱ

「秘伝千羽鶴折形」に掲載されている連鶴を折る場合には、机上で折らず、このように手の内で折ると良いと、四日市市「千羽鶴美術館」の故加藤先生に教わりました。

14 「あやめ（かえる）基本形」

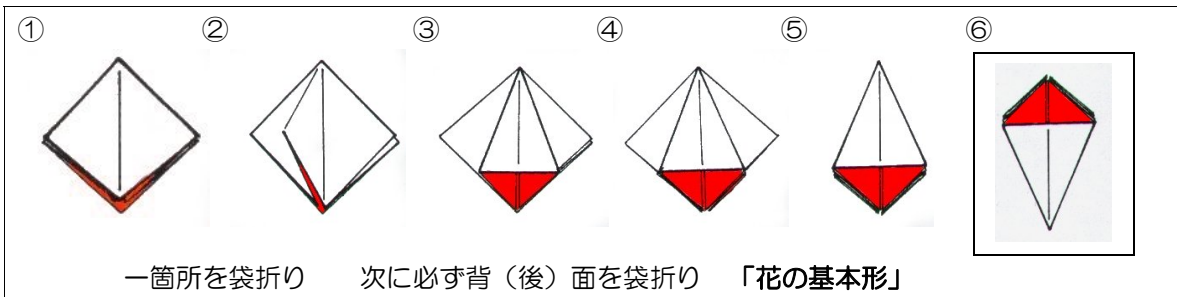
「正方基本形」をさらに折り進むと、「花の基本形」更に「あやめ（かえる）の基本形」になります。ここでは、繰り返し「袋折り」と「花卉折り」について説明します。



上図の折り方を繰り返せば、「あやめ（変える）基本形」が完成します。

今回は、折り方を示すために「袋折り」「花卉折り」を続けて折りましたが、本来は、袋折りを4箇所折った後に、改めて「花卉折り」を4箇所折るべきなのです。

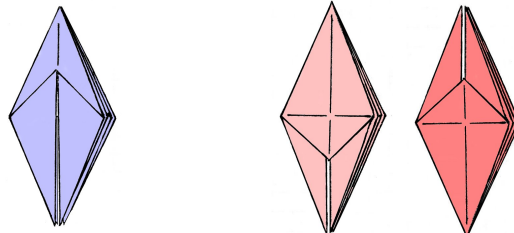
15 「正方基本形」から「袋折り」を4箇所折ったものを、「花の基本形」と言います。



「花の基本形」は本来⑥のように、「輪の部分」を下にして表示されることが多いです。しかし折るときには、下方（手前）に折る部分を置きますから、当然、上図のように折り進め、最後に上下を反転させて右図のようにします。

ここでの注意は、一箇所「袋折り（花卉折り）」を折ったら、必ず背（後）面を折ること。その後、横の部分を開き替えて、さらに「袋折り（花卉折り）」を折ることです。

この「開き替える」という技術（テクニック）は、折り紙の「整体」のようです。中心線（背骨）のゆがみを整え、すれを修正します。従って、「正方基本形」「風船基本形」を折った際にも、「開き替え」を行ってください。



あやめ（かえる）基本形Ⅰ

あやめ（かえる）基本形Ⅱ

16 「中わり折り」と「かぶせ折り」

この2種類の折り方は、何が何でもマスターしなければならない技術（テクニック）です。

わ側からばら側へ折り出すほうが「中わり折り」

ばら側からわ側へ折り出すほうが「かぶせ折り」です。

そして、初心者の誰もが一度はぶつかる、大きな壁です。

生物類（人物、動物、昆虫など）の頭や尾、手足を折り出す時には、なくてはならない技術です。

「中わり折り」の紹介

折り図だと以下のような紹介です。

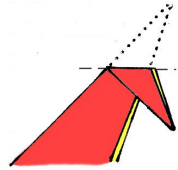
慣れた人には「どうってことない」折り方です。しかし、これが上手くいかない。

①を折る前に

右図のように一度

山谷折りをして

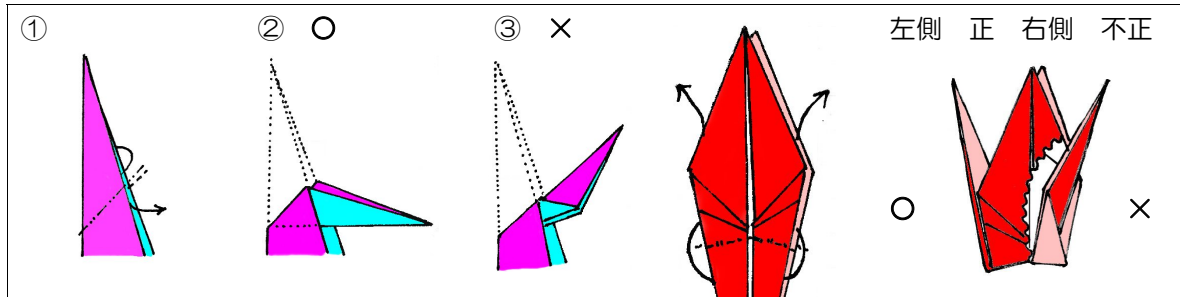
それでも新しい折り筋



折り筋（折り目）つけておくのも、良い方法です。

をつけてしまったり、予定の角度と変わってしまったりする

ケースがよくあります。以下に間違った折り方の例を紹介します。分かりやすくするために、本来異なった色にはならない部分もありますが、内側の部分と外側の部分とは、別々の色にして紹介します。



「ありえない」と思われるかもしれませんが、今までをしてしまう例を見てきました。要因は「中わり折り」のあります。もともと内側にあった部分が、折り出すことのために、内外を反転させる、そのことが理解できないようです。

指の使い方で説明します。

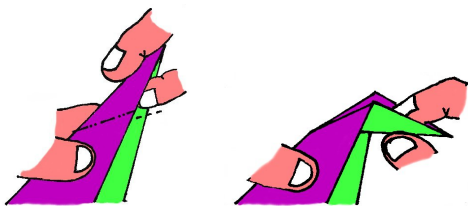
左手は元になる部分を軽く押さええます。（わ側）

右手の親指の先を開く部分の中に入れ、人差し指で中に割り込む部分の頭を押さえ反転させます。

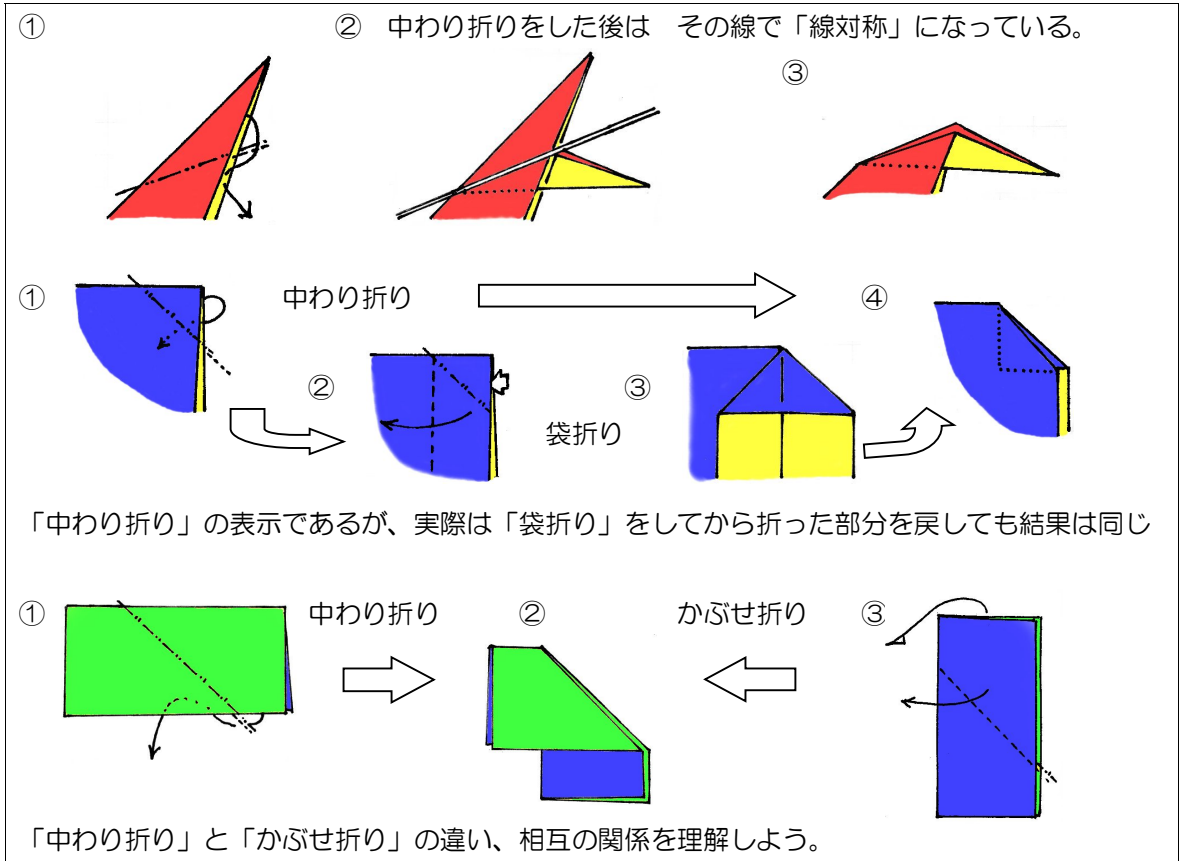
人差し指が内側に入り込みます。

形を整えます。

この方法ならば、あえて補助折りをしなくても押さえる角度を調節しながら位置を決めることができます。



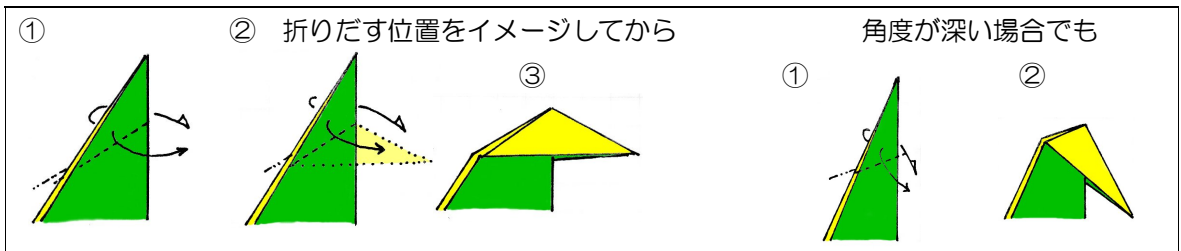
「中わり折り」のいろいろな種類



「かぶせ折り」の紹介

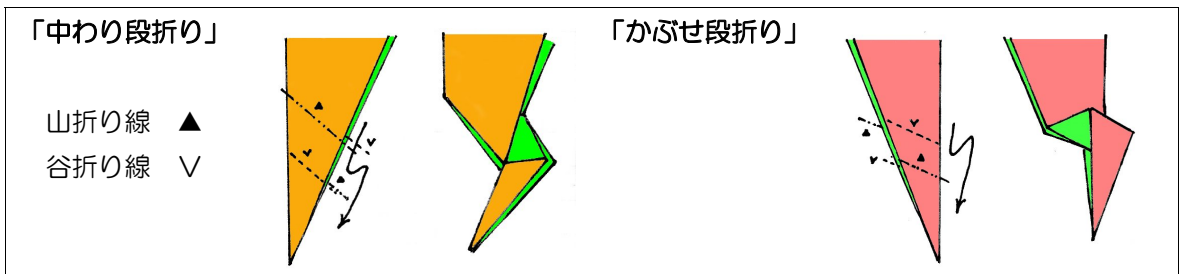
上図3番目の折り方で「中わり折り」と「かぶせ折り」の関係を感じてください。

「かぶせ折り」の場合は、ばら側からわ側へ、折りだします。

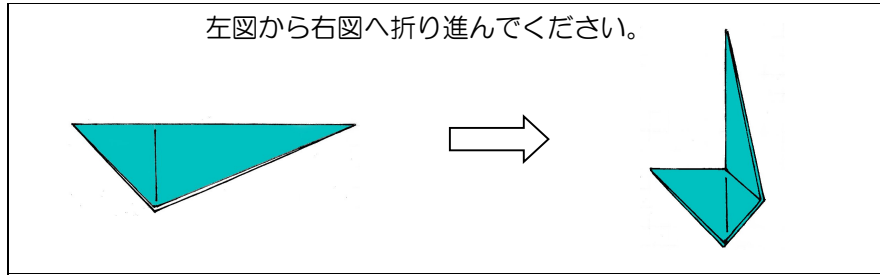


持ち手の部分を一度開くようにしてから、折る分、混乱する人が多いようです。

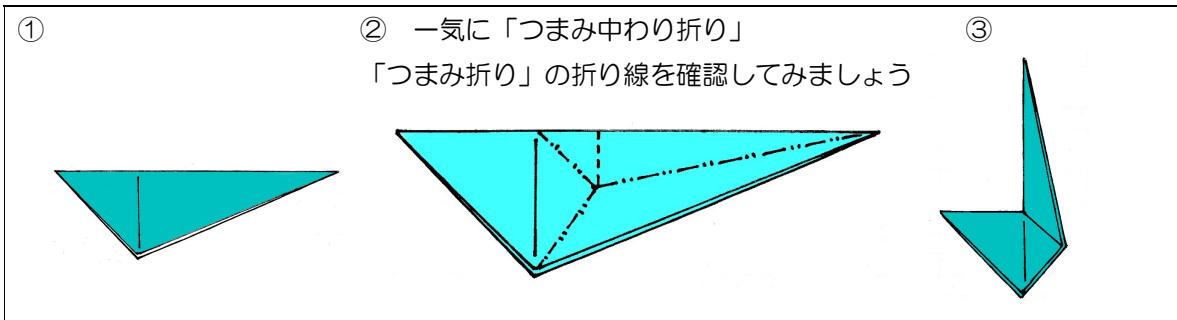
さらに「中わり段折り」「かぶせ段折り」も図に紹介します。折り図の中で出てきたら、「ああこれだ！」と思い起こしてください。内外に違う色をつけてわかりやすくしてあります。



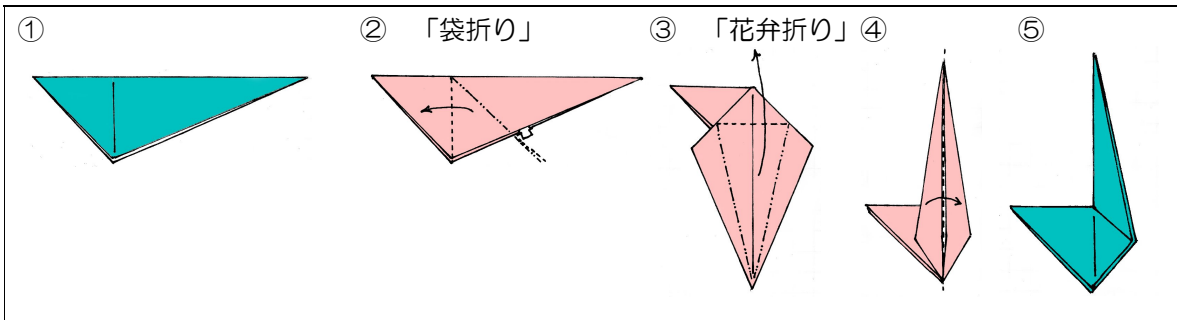
あなたなら、どう折りますか？どんな折り図を描きますか？そしてどんな工程で指導しますか？
この図は、「ソフトクリームの基本形」を縦2等分したものです。裏表とも同じに折ります。



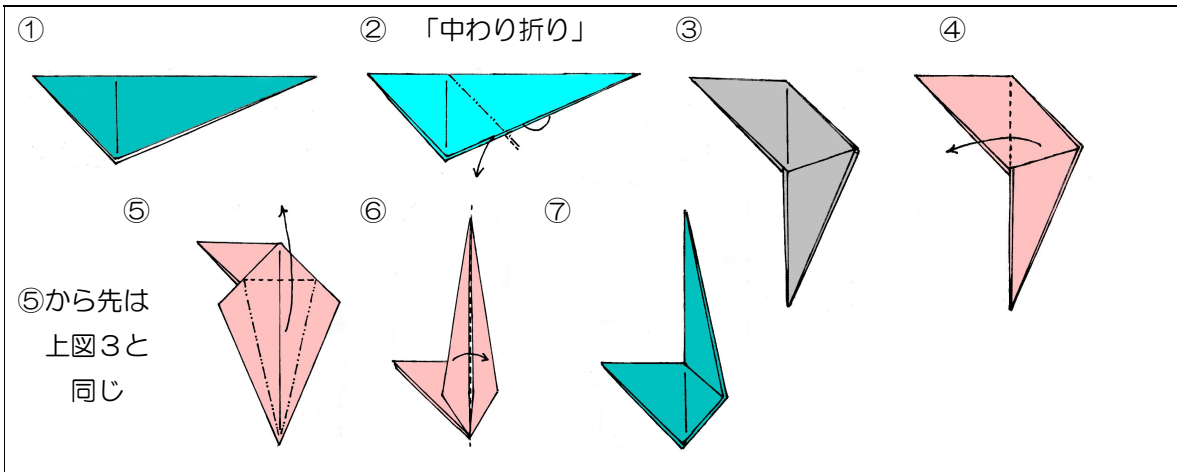
1 上級者向けかな、頭の中で折れたあなたはこんな方法？



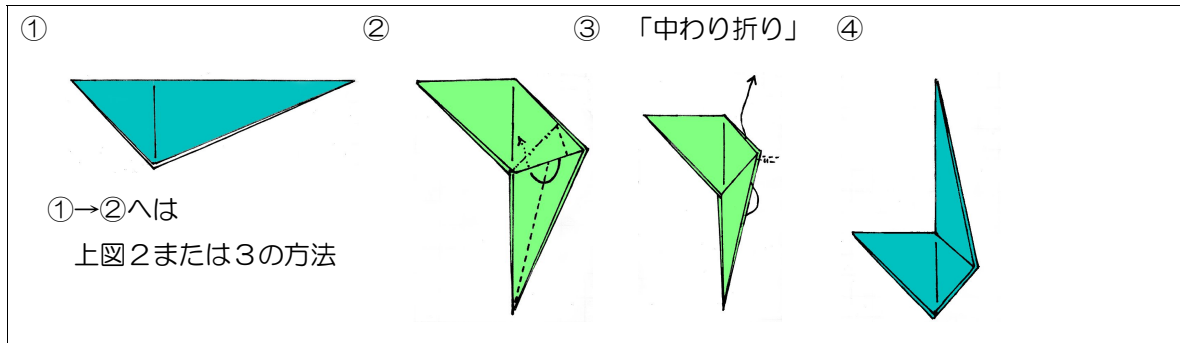
2 「袋折り」「花弁折り」を上手に使いえば、こんな折り方。



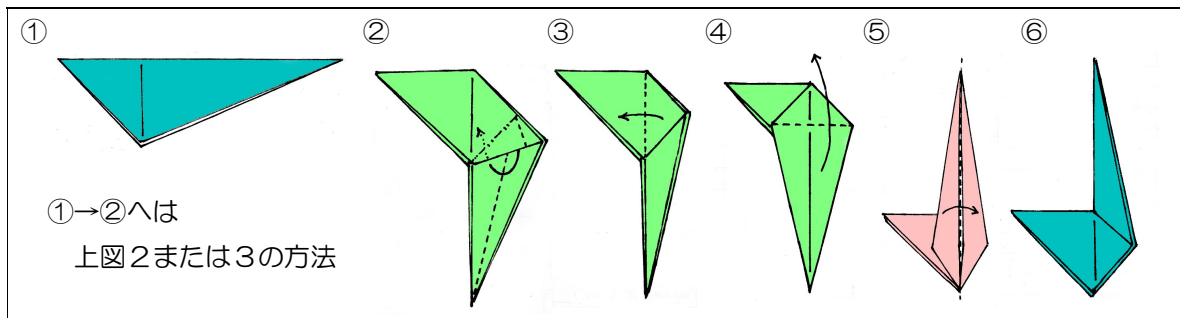
3 「中わり折り」から始めて見よう



4 「内側引き寄せ折り」・・・こんな折り方も出てきます。



5 4の①から③までは同じですが、無理に「中わり折り」をせず一旦開いて上に折り上げる方法



なお今回のこの折り図には、「三角形の三つの内角の2等分線は1点で交わる・・・この点を内心と呼ぶ」と言った数学的要素も含まれているのです。そのことは別にしても、このように、いろいろな方法で折ることができるということと同時に、折り図もいろいろな表現ができるということ、さらには、折る人に合わせていろいろな指導方法（教え方）があることを指導者は認識しておくことが大切でしょう。

この章のまとめとして、「何を折るか」はもちろん大切なテーマですが、そのテーマのために「どう折るか」「どう折らせるか」「どう折れるようにするか」に少し重点を置いて考えていただけたらと思います。

折り紙を指導するに当たっては、現場では多くの問題点が浮上します。

折る技術としてほかにも多くのテクニックが存在します。たとえば「しずめ折り」や「ねじり折り（回転折り）」そういった技術を、どう指導するか。

多面体を組むには、どう指導するか。基本となる多面体の基本理論がわかっているか？

とにかく「完成させたい」「折り図の最後まで到達したい」そういった要求にどうこたえていくか、「左も同じ」とか「裏も同じ」とか、「何番から何番まで繰り返して折る」とか、それって、それほど簡単ではないようです。

同様に、今回右利き用の折り図を紹介しましたが、左利きの人にはどう指導するか。などなどなど。

こういった問題に関しては次の機会に述べさせていただきます。

おりがみを、きれいに折ると言うことは、折れると言うことは、手にとっても脳（気持ち）にとっても、とっても、いいことのようにです。これからも、いろいろな作品に挑戦してみてください。あなたの折り紙ライフがより充実しますように願っています。“一折りに心をこめて・・・”平成25年夏